



について

## 制作総指揮 細川佳代子×監督 小栗謙一による渾身のドキュメンタリー映画 第5段

2010年、指揮者・小林研一郎が古希を迎え、障がいがある31名の演奏家[コバケンとその仲間たちオーケストラ]に加え、コンサートを企画しました。その中に、自閉症で知的障がいのある田口麻紀子がありました。

小さいころからバイオリンをはじめ、家ではCDの音をきっかけに弾き始めます。晴天の霹靂とも言えるこのコンサートで彼女は、世界の一線で活躍するバイオリン奏者の瀬崎明日香、川島成道、阿部真也、劇画家で音楽家の池田理代子らとの共演が実現します。障がいのある、なしにかかわらず、その人らしく生き活きと演奏してほしいとの趣旨で始まった半年の日々は、練習から公演まで小林研一郎氏との心を刺激しあう貴重な時間が流れました。この終始にカメラを向けたのが、2005年、長野県で開催されたスペシャルオリンピックス冬季世界大会の記録班として誕生した知的障がいのある9人の“ピリーブクルー”でした。

2011年3月11日、震災と津波が私達を襲いました。福島県いわき市出身の小林研一郎は「肉体を失った人々が、どんな思いで魂となったのか、それを思うと、今残されたものたちのことを考えることはとても・・・」と言葉を失います。

2011年6月、経済的な危機が深刻なギリシャのアテネでスペシャルオリンピックス夏季世界大会が開催され、参加した日本選手団の中には震災で被災したアスリートがいました。小原愛美と棚橋直也。一旦は参加を断念した彼らが世界大会で堂々と活躍するミッションを見事に果たしたのです。

2011年秋、津波で校舎も楽器も失くした豊間中学校の生徒を前に、小林研一郎が特別授業を行っていました。即興のピアノ演奏を交え、強い気持ちで生きていくことを願ったのです。

本映画の半分ほどの映像は、ピリーブクルーのカメラによって構成されていることも特筆すべきことです。

障がいの有無などにかかわらず、全ての人たちがその人らしく生き活きと命を輝かせて生きることのできる、そんな「INCLUSION (包み込む) 社会」の創造を目指して活動を続ける中で、まだまだ理解深め、取り組まなければならない様々な問題が見えて参ります。

そんな思いから制作致しました今回の作品は、障がい者を受け入れてくださったコバケンとその仲間たちオーケストラの奇跡と、それを追いかけて、カメラを回し続けたピリーブクルーのメンバーの成長ぶり。そして2011年アテネで開催されたスペシャルオリンピックス夏季世界大会で活躍する東北の被災地出身の選手達。被災したコバケンの故郷での中学生との交流等、それぞれの生命は、天心、すなわち宇宙の中心で輝いているという真実を描きだしています。

制作総指揮 細川佳代子

### コバケンとその仲間たちオーケストラ演奏曲

- ◎交響局「フィンランディア」 作曲：ジャン・シベリウス
- ◎歌劇「アイーダ」から「凱旋行進曲」 作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
- ◎「チゴイナーワイゼン」 作曲：パブロ・デ・サラサーテ ヴァイオリン：瀬崎明日香、川島成道
- ◎序曲「1812年」 作曲：ピョートル・チャイコフスキー
- ◎歌劇トゥーランドットから「誰も寝てはならぬ」 作曲：ジャコモ・プッチーニ
- ◎「藤棚の下に」 作曲：小林研一郎 作詞：サトウハチロー ソプラノ：池田理代子
- ◎組曲「バッサカリア」から「夏祭り」 作曲：小林研一郎
- ◎交響曲第9番「新世界より」第4楽章 作曲：アントンニン・ドヴォルザーク

### 小林研一郎ピアノ演奏

- ◎ピアノ協奏曲23番 作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
- ◎「雨だれ」 作曲：フデリック・フランソワ・ショパン

### 福島県いわき市立豊間中学校箏曲部 演奏曲

- ◎「華紋」 作曲：吉崎克彦



## 国際ソロプチミスト東京一調布ローレルについて

国際ソロプチミスト (SOROPTIMIST INTERNATIONAL) について

ソロプチミストとはラテン語でソロ、オプティマの合成語であり、ソロとは姉妹、女性を意味し、オプティマは最善最良を意味します。国際ソロプチミストは管理職、専門職に就いている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動をしています。国連の経済社会理事会 (ECOSOC) の総合協議資格を持つ数少ない女性の NGO です。

国際ソロプチミスト東京一調布ローレルについて

国際ソロプチミスト東京一調布のもと、2005年10月24日、東リジョン99番目のクラブとして、認証されました。地域・社会に貢献するために、活動を行っております。